

【中道改革連合合流のご報告、所感】

1/16、奇しくも私の誕生日に新党「中道改革連合」が誕生しました。

まずははじめに、大塚さゆりは新党入党させていただくことをご報告させていただきます。

立憲民主党の掲げる理念に共感し活動してきた私としては政党が突然無くなってしまったことにショックを感じましたし、新政党の全容がなかなか見えず不安を感じておりました。

本日、立憲民主党、公明党双方からの綱領やお話を聞き、今の思いをまとめたいと思います。

今の政治は、強い言葉で対立を煽り、

「国家のため」「安全保障のため」と言いながら、

日々の暮らしの苦しさが後回しにされている気がしてなりません。

物価は上がり、賃金は追いつかない。医療や福祉、子育て施策は常に後回し。

子育て世代も、現役世代も、高齢者も、将来への不安を抱えています。

それでも政治は、分断や対立を選挙のエネルギーにしている。

これまでの政治のやり方を大きく変えたいと思っています。

中道が掲げるのは

国家ファーストでも、イデオロギーファーストでもない。

生活者ファーストの政治だと理解しました。

安全保障も大切です。

だからこそ、専守防衛を基本に、

日本を守るために必要なことは冷静に、現実的に進める。しかしながら武力行使にならぬよう抑止力を最大に発揮していく。

不安を煽るのではなく、命に責任を持つ政治が必要です。

エネルギー政策も同じです。

将来は原発に依存しない社会を目指しながら、

今の暮らしと産業を守るため、

何が本当に必要なかを安全と合意を前提に現実的に判断する。ゆくゆくはゼロを目指していく。持続可能性に疑問のあるエネルギーは見直すべきです。

憲法についても、守るべき原則は守りながら、

時代に合わない部分は、改憲ありきではなくしっかりと議論する。

賛成か反対かの二択ではなく、合意をつくる政治が必要です。

分断ではなく対話を。

強制ではなく包摶を。

理念ではなく、暮らしに責任を持つ政治を。中道改革の目指す道はこれまでの立憲民主党の想いを排除せず、中に息づいていると感じました。

立憲民主党、公明党の役員の皆様は仲間が袂を分つことなく、一つの旗のもと合流出来るよう熟慮されたのではないかと思います。そういう想いを汲み取り、私も共に歩んでいこうと決意いたしました。

まだまだ生まれたばかりの政党です。この選挙でどこまで思いが伝わるのか分かりません。

しかし今、まさに日本が大きく動こうとしています。

高市内閣の下で懸念されるのは、

核共有

核抑止力の強化

米国核戦略への一体化

といった議論が進むことで、

「持ち込ませず」が事実上空文化する可能性です。

高市内閣の特徴は、

脅威を強調
抑止力を前面に
対話より圧力を優先

という傾向にあります。

結果として、

周辺国との緊張が高まる
軍拡の連鎖に巻き込まれる
日本が「攻撃対象」として意識されやすくなる

核を口にする政治は、むしろ日本の安全を下げる危険があります。

被爆国である日本が核に関して曖昧な姿勢を取れば、

核軍縮を訴える資格が弱まる
国際社会での発言力が低下する
被爆者の声が政治から切り離される

これは外交問題であると同時に、日本の価値と誇りの問題であると考えます。

このような危機的状況だからこそ、今、國ありき、イデオロギーありきの政治に「人」を中心に据えた大きな対立軸を示して政治のうねりを作っていく必要性に共感いたします（唐突すぎではありましたか。）。

私が目指す社会は変わりません。子どもたちや若者が未来に希望を感じられる社会。子供を産み育てることに喜びを感じられる社会。年をとっても、障害を持っても、支えてくれる医療や福祉が身近に感じられる社会です。

この選挙戦、私自身の思いは当初よりぶれる事なく、全力で臨みたいと思います。

忌憚なきご意見引き続きお聞かせください。